



美郷町長
松田 知己

積み重ねの意識／合併5周年を迎えて

期待と不安、双方を抱えて歩みはじめた美郷町。あつと言う間に合併5周年を迎えました。これまでの歩みには、

それぞれいろんな評価と感慨はあるでしょうが、全体を俯瞰すると総じて順調な歩みだったと私は総括しております。

これはひとえに、「いい町にしたい」というみなさんの共通の想いと、それに伴う「互譲と展望」の意識を持つてのご理解とご協力のおかげです。敬意を表しながら、心から深く感謝を申し上げます。

さて、この度の合併5周年は、美郷町にとって大きな節目の一つであり、一度しかない節目です。ですから、より深い意義を持ちたいと私は思います。そのため、改めてこの機会にみなさんと

郷町の未来に向けた意識を共有したいと思えます。

「歴史に学ぶ」。この言葉は、あらゆる分野に通ずる金言です。そこで、合併という事象を歴史に学んでみます。

見渡せる中で学べるのは、その足跡と結果を把握できる昭和の合併です。では、その昭和の合併は成功だったのか、失敗だったのか。愛郷心や生活の利便性の状況などを踏まえると、確実に成功だったと私は考えております。そうです、

昭和の合併に失敗はありません。では、その核心に何が存在していたのでしょうか。私は「積み重ねの意識」だったと考えています。不安と不満を乗り越える建設的な議論の積み重ね、将来の姿

を見据えた地道な実践の積み重ね。そのことが、町村に対する愛郷心をしっかりと醸成し、各分野で生活の利便性を実現し、地域に発展をもたらしたと考えています。

昭和にできて、平成にできないことはありません。確かに、前向きな気持ちを折らずに議論を積み重ねること、一途に実践を積み重ねることは容易なことではありません。しかし、私たちの責任である「合併の成功」を未来に届けるためには、欠くことのできないことです。今後も、互譲と展望の意識とともに、積み重ねの意識を持ち続け、みなさんと誇れる美郷を着実に創りあげていきましょう。

「そうです、私たちにはできます」。



美郷町議会議長
高橋 猛

美郷の礎を築くために

過ぎ去りし時は早いもので、合併して早5年の歳月となりました。振り返ってみますと、大きな混乱もなく平成の合併秋田県第二号として誕生した美郷町でありましたが、これまでの5年間で取り組んできたことに対する「美郷のまちづくりアンケート」によれば、概ね8割前後の方々から満足、やや満足という回答を頂いていることに少しは安堵しているところがあります。

私は、平成の合併の大きな要因のひとつは、国の三位一体改革に伴う財政に関する将来的な不安であったと思います。町では健全な財政運営をしなければならぬということで「財政健全化計画」をたてて公債費負担の健全化、コ

ストの削減、公共施設の見直し等積極的な取り組みによって財政力を示す指数は目標以上に改善されている状況であります。現在、町では合併特例ということで国からの特別な支援を受けているわけですが、もう5年が過ぎますと特例措置が終わり予算規模はかなり抑えられることが予測されております。したがって、それまでにしっかりと体力を蓄えることが、この先美郷町が長い歴史を築けるか大事な後半の第2ステージになると思えます。

話は変わりますが、過日「平均年収2,500万円の農村」という記事に興味を惹かれました。後継者の平均年齢28歳、出生率全国2位、一人当たり医

療費は県内最小。それは二十年以上徹底して農業にこだわった行政の取り組みが成果として現れた結果でした。美郷も間違いなく農村、農業の町であり、この6,000ヘクタールの農地から如何にして所得を上げる取り組みが出来るのか、町の活性化につながるキーワードだと思えます。農家の意識改革と生産意欲に係るところが大きいと思えますが、行政としても視点を変えた取り組みが肝要かと思えます。その村長曰く「農村部なら農業で生きる哲学をもて」でありました。

